

新年のあいさつについて

<市長コメント>

新年明けましておめでとうございます。

つつがなく新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

21世紀のはじめの10年は、政治、経済など混迷を深め、多くの課題を残したまま終わりました。次の10年に私たちはどんな歩みを期待し、新しい世界を夢見るのでしょうか。

この年末年始に、久しぶりに、高浜虚子の有名な一句「^{こそ}去年
^{ことし}今年 貫く棒の 如きもの」について、じっくり考える時間を持つことができました。「貫く棒の如きもの」については、解釈は人それぞれ違いがあるでしょうが、私は、信念を持って貫くことと解釈しております。

石巻市の10年後を見据えて「石巻港の整備計画」、「中心市街地活性化計画」、「水辺の緑のプロムナード計画」、「定住自立圏構想」や「地域自治システム」など様々な施策を、信念を持って貫きたいと考えております。本市の10年後の将来像として、農林漁業が輝き、環境・新エネルギー・観光を柱とする産業が振興する町、「絆」を大切にしたい住みやすい社会、定住人口がゆるやかに回復した都市を想像しています。

昨年を振り返りますと、円高やデフレの進行など大変厳しい年でしたが、本市においては、日本製紙石巻硬式野球部が「第81回全国都市対抗野球大会」に初出場し、また「第5回B級ご当地グルメの祭典－B1グランプリ in 厚木」に「石巻茶色い焼きそば」が初出場するなど非常に明るい話題もありました。

今年も、「産業振興と雇用対策の推進」、「少子化対策の推進」、「安全・安心な街づくりの推進」、そして財政健全化に向けた「行財政改革の推進」など様々な課題の解決に向けて全力で取り組んでまいりたいと考えております。

現在、地方自治体には、自らの責任と判断により行政運営を行う「地域主権」への取り組みが求められております。そのためには、市民と行政との協働の街づくりが必要不可欠であると考えております。